

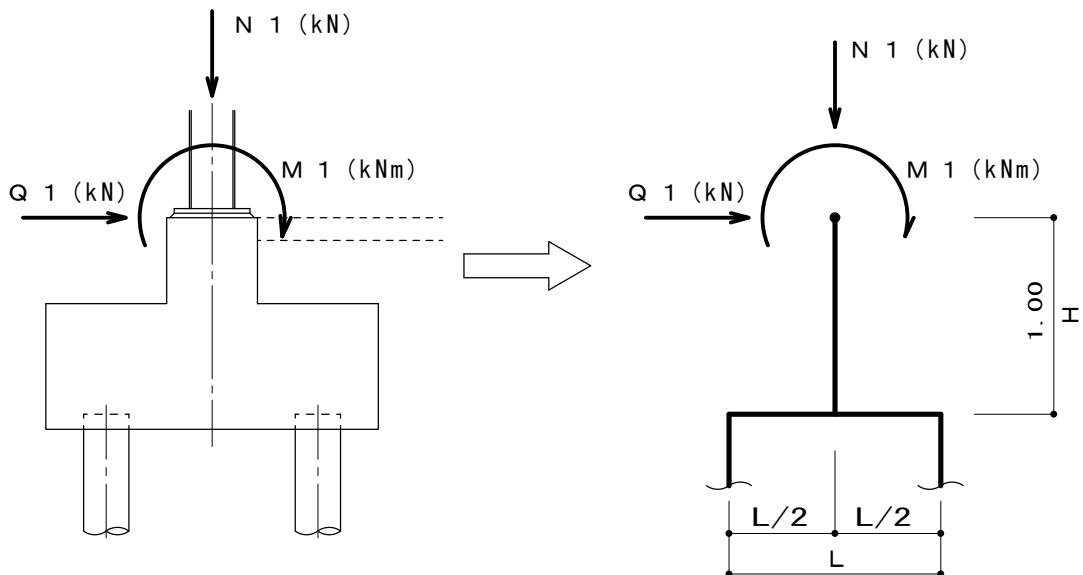
2. 上部架構より発生する M, Q

- a. 地中梁が取り付く方向は、M, Q 共、地中梁に負担とする。
 - b. 地中梁がない方向は、M は基礎負担とし、且つ杭の付加軸力として考慮する。
 - ・ M は基礎負担とし、且つ杭の付加軸力として考慮する。
 - ・ Q は、鉛直時・積雪時については、柱脚・地中梁に取り付く土間コンクリートにて拘束とする。（土間コンと躯体は縁を切らずに施工）
(上記荷重時の Q は、おおむね左右の支点の反力が釣り合う状態であり、且つ、土間コン下の摩擦力にても拘束効果があると考えられる。)
- また、地震時・風荷重時については、より安全を考慮して M, Q 共、基礎負担とし且つ、杭の付加軸力として考慮する。

3. 杭頭部に発生する曲げ戻しモーメント

- a. 地中梁が取り付く方向は、地中梁に負担とする。
(但し、鉛直時・積雪時については、上記 2-b 同様の理由により杭に水平力は発生しないと考えられる。)
- b. 地中梁がない方向は、基礎負担とし、且つ杭の付加軸力として考慮する。

・地中梁のない方向における基礎負担の概略的なモデル化



上部構造部分からの応力

+

杭頭曲げ戻しMによる応力

